

2025年12月14日

東京電力ホールディングス株式会社 代表執行役社長 小早川 智明 様

## 柏崎刈羽原発の再稼働を断念することを求める申し入れ

貴社は柏崎刈羽原発の再稼働をしようと躍起です。地域経済の活性化や事故に備えた避難訓練等1000億円規模(10年間)の資金拠出、1・2号機の廃炉を検討などの表明し、再稼働に向けて新潟県に強力に働きかけてきました。また、県民意識調査の結果を受けて安全対策の広報活動の強化にも乗り出しています

貴社が津波対策を怠り、福島第一原発重大事故を引き起こしてから、間もなく15年を迎えます。非常事態宣言は続き、帰還困難は残り、故郷に帰りたくても帰れない避難者がいます。事故炉は廃炉の見通しもたちません。毎日4000人の労働者が事故収束に向けて被ばくしながら働いています。「福島への責任を果たすために東電の『最大の使命』として取り組む」のなら、完全賠償、事故収束、住民のための復興に全力を傾注すべきです

福島第一原発事故の被害が続き、貴社はその責任も果たしていない中で、柏崎刈羽原発の再稼働に血道をあげることなど許されません。ただでさえ柏崎刈羽原発は2007年の中越沖地震で被災した「傷だらけ」の原発であり、しかもその近くには強大な海底断層があることが指摘され、「豆腐の上にある原発」とも言われています。貴社は福島第一原発事故後も反省することなく不祥事きで、21年のテロ対策の不備、今年に入ってからもテロ対策に関する秘密文書の取り扱いの不備等の不祥事が報じられており、事業者としての適格性を欠いています。さらに地元の再稼働の同意がないうちに炉心に燃料を装填し、前のめりに再稼働の準備を進めてきたことは地元軽視も甚だしい姿勢です。

原発事故は人災です。一たび重大事故が起こればその被害は甚大で取り返しがつかないことを福島第一原発事故は示し、貴社はそのことを身に沁みて知っている筈です。重大事故を繰り返さないためには、原発を再稼働させではありません。

以下、申し入れます。

1. 被災し、海底断層のそばに建つ柏崎刈羽原発を再稼働させないで下さい。
2. 福島第一原発事故被害者に完全賠償を行い、事故収束、住民のための復興に全力を挙げて下さい。

以上

「チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西」発足34年の集い 参加者一同

(チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西は旧ソ連のチェルノブイリ原発重大事故を契機に、事故被害者との支援・交流を1991年から行っています。「原発重大事故を繰り返さないで、これ以上ヒバクシャを生み出さないで」と訴えて関西を中心に活動している市民グループです。)